ヨルマ・ユリーン駐日フィンランド大使

2009 年 5 月 27 日に
フィンランド大使館で開催された
(社）日本フィンランド協会総会・例会での講演

日本とフィンランドの協力関係－外交関係樹立 90 周年をむかえて－

片山会長、社団法人日本フィンランド協会の皆様、ご来賓の皆様、

フィンランドと日本の修交 90 周年を祝う特別の年に、皆様を大使館にお迎えすることが出来て誠に嬉しく思います。

90 年たったこの折に、フィンランドと日本の協力関係を、過去・現在・将来という視点から考えてみたいと思います。特に、(社）日本フィンランド協会やフィンランドの友の皆様とこの時間を共有したいと思います。皆様の長年のご活動とご尽力があったからこそ、二カ国間の協力や交流が今日これほどまで多岐にわたるようになったからです。

－過去－

まず、過去を振り返ってから、現在の関係についてより詳しくお話したいと思います。

日本は 90 年前、独立したばかりのフィンランドを国家として正式に承認したアジアで最初の国となりました。1919 年には二カ国間で外交関係が樹立し、フィンランドはアジアでは日本に最初の公使を派遣しました。その後、ほぼ中断されることなく日本に大使が派遣され、私は 15 代目の大使であることを光栄に思います。

実は、政府間で公式な関係が樹立する前から、フィンランドと日本は共通の関心事を中心に交流を始めていました。特に、フィンランド人の宣教師が、修交の約 20 年前から日本で活動をしており、現在に至っています。2 ヶ月程前、フィンランド人宣教師による活動 100 周年を記念して福音ルーテル教会のユッカ・パーマ大主教が長野県の諏訪市を訪問しました。

過去をふりかえると、私たちの間にある唯一の国、ロシアもしくは旧ソ連が歴史の重要な展開にいつも関わっていたことがわかります。特に次の二つの出来事は、フィンランドと日本に大きな影響を与えました。

まず、1905 年の日本海海戦（対馬海戦）で日本がロシア帝国を破ったこと。日本の快挙は、超大国のフィンランドに対する影響力を減少させ、私たちは、政治的にも社会的にもひと息つく間をあたえられ、その後の展開にむけて大きな勇気をもらいました。その 20 年後の 1930 年代はじめ、フィンランドは、オーランド諸島の問題を抱えていました。その問題も、当時国際連盟の議長国を務めていた日本が我が国にとって非常に満足のいく解決に導いてくれたのです。

その他にも二つばかり言及するに値する進展がありました。まず、ロシア帝国からの独立を求めるフィンランドの運動は日本から財政的援助をうけていたこと。フィンランド人は日本に大いに感謝しました。次に、第二次世界大戦の前には、フィンランドと日本が軍事訓練で協力をしていたことを挙げたいと思います。この四つの例は、今日でも私たちの記憶に留めておく価値のあるものです。

－現在－
さて、現在のフィンランドと日本の協力関係ですが、両国民はかなり満足できる状態にあると思います。政治的な問題もなく、実に多様で強力な協力関係を享受しているからです。今日、そしてかなり以前より、特に民間部門がイニシャチブをとる協力関係が著しく発展してきました。90 年前に築かれた枠組みと土台が今まさに機能しているわけです。

二国間では、ハイレベルな訪問も頻繁におこなわれるようになりました。2000 年以降のハイライトを挙げると、2000 年の天皇・皇后陛下によるフィンランドご訪問、2005 年と 2008 年のヴァンハネン首相による日本訪問、小泉元首相による 2006 年のフィンランド訪問があります。以前にまして、多くの閣僚が特にフィンランドから日本を訪問するようになりました。そのほとんどは、商取引の促進を目的とし、ビジネス代表団が同行するものです。また、国会議員らによる訪問も、毎年おこなわれています。

日本はフィンランドにとって貴重なパートナーです。では、そのパートナーとの協力にフィンランドは何を求めているのでしょうか？

- 政治的対話の維持（国連問題、ロシア・・・、今後は北極での協力など）
- 経験や高度専門的知識の共有（平和維持や平和構築活動など）
- 観光の促進
- 科学や技術面での協力（大学の Center of Excellence (COE)や理研などの一流研究所が が重要な役割を担う）
- 大学間での交流や協力（交換留学生や研究者）
- 文化輸出の促進、　そして言うまでもなく、
- 経済協力、通商、投資

二カ国間の協力は、その他の重要な課題や分野でもおこなわれています。フィンランドと日本は、直面する共通の課題について、経験や知識を交換しあい、一番いい方法や方針（ベストプラクティス）を見出しています。
私は、特に次の 3 つの課題を挙げたいと思います：
- 世界的な経済危機
- グローバル化（新興国への職の流出）
- 高齢化社会（医療サービスや高齢者介護問題など）

高齢化社会の問題では、皆様も、今注目を集めるようになった仙台フィンランド健康福祉センターについてお耳にしたことがあると思います。新潟県の阿賀野市でも、似たようなプロジェクトが最近、始動しました。また、経済同友会とフィンランドの経営者団体ＥＶＡが二年前に「創造的高齢化社会」（Creative and Aging Societies）という共同報告書をまとめました。日本とフィンランドという豊かな先進国にとって、これらの課題に対する解決策にあまり差があるとは考えられません。したがって、それぞれの国益のために選択的な情報交換や協力をすることは有意義なことです。政府間での協力ももちろんですが、民間部門間での協力により大きな可能性があると私は思います。

－フィンランドのイメージ－
日本でのフィンランドのイメージは、20 年ほど前にくらべると、明らかに多様化し、近代的になっていることを嬉しく思います。もちろん、サンタクロース、ムーミン、オーロラ、ラップランド、ソ連との戦争、シベリウス、アルヴァー・アールトといったユニークで異国情緒に満ちた従来のイメージは今でも健在で、それはフィンランドのイメージダウンに繋がるものでは決してありません。しかしながら、今日のフィンランドは、世界一の教育制度、高い国際競争力と矛盾しない福祉社会、ノキアを代表とする成長部門の ICT 産業、ハイテク重視の政策、非常に集約的な研究開発など、新しい近代的なイメージも併せ持つようになりました。日本人観光客が一番多く訪問する北欧の国はフィンランドということですが、これには、以上のような背景があるからかもしれません。

そういう訳で、駐日フィンランド大使としては実に快適な仕事環境を楽しんで参りました。ただ、仕事が楽すぎるという訳ではありません。日本の人々の関心を惹こうと、大国でさえしのぎを削っているからです。

－日本のイメージ－
フィンランドでの日本のイメージも大変肯定的に発展し、多様になりました。私たちにとって、日本は、経済や技術大国、高品質な車や電子機器の生産国、先進 8 カ国のメンバー国だけではありません。今日のフィンランド人は、日本の料理、文化—特に漫画やアニメといった若者文化－を今まで以上に高く評価しています。昨年と今年、日本の芸術文化を紹介する大規模な展覧会がフィンランドで開催されました。日本で新設された観光庁がもっとフィンランド人に日本を売り込んでくれることを期待しております。

日本との協力関係が今日では特に民間主導であることを先ほど述べました。これはとても良いことです。民間部門に引き継いでもらえるように準備するのが、政府部門にとって究極の目標であるべきだからです。

－友好協会の役割－
過去から今日にいたるまで、友好協会は重要な役割を果たしてきました。新しい人脈の開拓、出版も含む情報の流布、文化活動をはじめとした様々な活動の企画づくりや実施、学生をはじめとする人的交流の促進、奨学金の給付、国境をこえた交流の強化、才能ある個人への支援などです。友好協会は、単なる「フィンランドのファンクラブ」ではありません。特に貴社団法人日本フィンランド協会、そして、その前身として 1932 年に設立された日本人フィンランド人友好協会は、どこよりも大きな役割を果たされました。

今日、日本各地には 14 もの主要な日本フィンランド友好協会があります。そのほか、おそらく 20 以上の友好団体が実にさまざまな活動を通して、フィンランドと日本の相互理解の向上に貢献しています。最も新しい友好協会には、昨年 7 月、沖縄に誕生しました。

駐日フィンランド大使館は、このようなさまざまな友好協会やクラブに心より感謝しております。皆様の活動に感謝しております。皆様は、今後も私たちの貴重なパートナーです。
どのようにしたら若い世代にもアピールする存在でありつづけるか等の課題を友好協会が抱えているのも良く承知しております。皆様が新たな方法や機能の仕方を見出すことを期待しております。友好協会どうしが協力しあうのも一つの方法かもしれません。

－フィンランドと EU－

フィンランドが 1995 年に EU に加盟したことは、日本との関係に新たな側面を加えることになりました。フィンランドは、一国としてばかりでなく、5 億人もの人口と日本の国土の 11 倍をもつ EU の加盟国として日本と向き合うようになりました。EU 加盟国フィンランドは、特に経済的協力と政治的対話で日本とさまざまな協力の可能性をもつようになりました。

外交関係と協力関係を 90 年続けてきたフィンランドと日本。今後も、一層の協力が求められていることを確信しております。友好も必要です。私たち 2 ヵ国とも、多くの困難を乗り越えてここまで発展してきました。これは、一生懸命に努力すれば難しい課題や問題を克服することが可能であることを証明するものです。「不屈の精神 SISU」のフィンランド人と「頑張りの精神」の日本人が力をあわせれば課題は解決できます。協力すれば、それぞれのためになる良い方法が見つかることがあるのです。

社団法人日本フィンランド協会、理事、会員の皆様、フィンランドと日本の絆を深めることにご尽力いただきまして、改めて御礼申し上げます。今後も末永くフィンランドを宜しくお願い申し上げます。

(訳：下村雅子)